

地質情報展 2013 みやぎ 体験コーナー —自分だけの化石レプリカを作ろう!!—

利光誠一¹⁾・中島 礼²⁾・中澤 努²⁾・関口 晃¹⁾・平林恵理¹⁾

2013年9月14日～16日にスリーエム仙台市科学館で開催された「地質情報展 2013 みやぎ」において、恒例となっている体験コーナー「自分だけの化石レプリカを作ろう!!」を出展しました。このコーナーは、これまで開催の地質情報展で毎回出展しており、訪れる子供たちにとって人気のコーナーの1つになっています。今回のレプリカ作製用として準備した化石は、前回と同じく、古生代を代表する三葉虫、中生代を代表するアンモナイト、新生代を代表する巻貝ジカリヤで、この3種類のうちのどれか1つを選択していただくようにしました(第1図)。

前年度の「2012 おおさか」では本コーナー受付のために長蛇の列ができてしまい、長時間並んでお待ちいただくという事態になり、大都市圏での体験コーナー運営に関しての反省点となりました(利光ほか, 2013)。情報展開催日が休日にあたるため、今回の会場のスリーエム仙台市科学館も入館者数が多くなるという事前予想がなされ、加えて運営にあたるスタッフの数がこれまでに比べて少なくなったこともあり、本コーナーの運営方法を見直すことにしました。これまでは、受付で整理券を配り、2～3名単位で順次空いた席に座っていただき、テーブルごとに配置

された指導スタッフから化石のことやレプリカ作製の工程についての説明を受けながら作業を進めていました。今回は、時間を30分ごとに区切って、毎回定員を決めた上で3つの作業テーブルに分かれて着席していただき、最初にまとめて5～10分程度の全体説明をしてからテーブルごとに各自の作業をしていただくことにしました(第2図)。初日は1回につき12～15名程度の定員で進めていましたが、(予想はしていたものの)体験希望者が多かったこともあり、2日目は定員を少し増やすことにしました。最終日には直接の指導に当たった学生スタッフも慣れてきて多人数への対応が可能となったと判断できたため、定員を1回につき24名程度までに増やすことにより、3日間でのべ435名の方々に化石レプリカ作製体験をしていただくことができました。内訳は、初日(午後のみ)が89名、2日目(午前・午後)が200名、3日目(午前のみ)が146名です。化石の種類別では、ジカリヤが73個、アンモナイトが202個、三葉虫が160個となっています。今回も来場者が多かったため、一人で何度も並び直して複数個作る方はいみせんでしたが、リピーターとして2日間にわたり来場して下さったご家族もおられたようです。



第1図 化石レプリカ作製体験コーナー受付の様子。これから作製するレプリカをどれにするか、選んでいるところ。まずは触って確かめてネ。



第2図 スタッフによる化石の説明の様子。全体説明が終わってから、それぞれレプリカ作製の作業にはいります。入り口付近(写真奥)には「触れる化石」のテーブルを配置して、希望者に実物の化石数種の感触を確かめていただきました。

1) 産総研 地質標本館
2) 産総研 地質情報研究部門

キーワード：地質情報展みやぎ、化石、レプリカ作製、体験型イベント



第3図 受付で整理券をもらうための待ち列の様子。化石レプリカ作製体験コーナー会場となった1階「市民の理科室」前の図書閲覧スペースで椅子に座って列を作っていました。1時間以上並ばれた方もいます。

また、仙台市およびその周辺地域からの来場者が多かったようですが、県内の北部や南部、さらにはお隣の山形県や福島県からお出でいただいた方もおられ、皆さん喜んで完成した化石レプリカを持ち帰られていました。

宮城県北部から岩手県南部にかけて古生代中期（約4億4000万～3億5000万年前）の三葉虫のほか、サンゴや腕足類、コケムシ等の化石の産出する地層が知られており、これとともに山地や海岸沿いに古生代後期から中生代後期（約3億5000万年～1億年前）の地層が分布しています。一方、新生代新第三紀～第四紀（約2000万年前～現世）の新しい地層が県央から県南にかけての平野部や丘陵部を中心に分布しています。これらの地層から、今回のレプリカ作製に使用された化石の仲間の産出も知られています。従って、このように多様な地質に支えられた地域ですので、住民の皆さんの地質や化石に対する意識も高く、化石についての知識の豊富なお子さん方も多く見受けられました。今回作製していただいたレプリカのもととなった

化石の仲間（三葉虫、アンモナイト、ジカリヤ）はいずれも宮城県内で産出していますので、そのことも参加いただいた皆さんの関心を高めた一因になったのではないかと思います。

大勢の皆さんにお出でいただいた背景には、今回も事前に近隣の学校に配布したポスターやチラシ等の宣伝効果が大きいにあったものと思われます。また、初日夕方にNHKテレビでイベントの様子が放映されたことなども大きく影響して、強い雨（最終日は台風）の中でもひるまず化石レプリカ作製コーナーめざして朝早くから並んでいただいたご家族連れの方々も多くおられました（第3図）。また、今回の化石レプリカ作製体験コーナーの運営に際しては山形大学から4名の学生の協力がありました。あわせて受付待ち列の整理や完成したレプリカの引き渡し等にスリーエム仙台市科学館のボランティアスタッフの方々にもご協力をいただきました。最後になりましたが、悪天候にも関わらず（開館時刻前から）会場を訪れて並んでいただいた皆様、そして本コーナーの運営にご協力いただいた皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。

文 献

利光誠一・中島 礼・中澤 努・坂野靖行・菅家亜希子・及川輝樹・坂田健太郎・山本直孝・川畑 晶（2013）地質情報展2012 おおさか 体験コーナー —自分だけの化石レプリカを作ろう!!—. GSJ地質ニュース, 2, 152-153.

TOSHIMITSU Seiichi, NAKASHIMA Rei, NAKAZAWA Tsutomu, SEKIGUCHI Akira and HIRABAYASHI Eri (2014) A special section for an experience of making fossil replica in "Geoscience Exhibition in Miyagi 2013".

（受付：2013年11月15日）